

第2回淡路ビジョン座談会～しゃべってみらんか～結果概要

日 時：令和4年9月3日（土）14：00～16：00

場 所：洲本総合庁舎3階会議室

参加者：地域住民16名

洲本農林水産振興事務所 上野所長補佐、事務局（大橋班長、正司）

内 容

（1）淡路地域ビジョンについての説明

（2）基調講演

「淡路島の竹林保全の取組について」

講師：竹林利活用協議会代表 西野 菊高 さん

- ・淡路地域の竹林面積は、平成10年～20年にかけて5倍以上拡大している。
- ・地元の鮎原地区においても、放置竹林による生態系への影響や農業被害が出ており、拡大を食い止める取り組みが必要だと感じる。
- ・そのためには、まず多くの人に放置竹林の現状を知ってもらい、竹の活用を広めていくことが重要。
- ・そこで、15年ほど前から、数々の地域イベントで竹工作などのワークショップを行い、地域の方に竹の魅力を知ってもらう活動を続けている。
- ・併せて、ビジョン委員会の元メンバーたちで結成した竹林利活用協議会の代表を務め、月に2回竹ひごづくり・竹工作教室を実施している。
- ・今年は、5年前まで実施していた「かぐや姫竹林コンサート」の復活に向けて、若い人のノウハウを継承しながら、準備に携わっている。

（3）質疑応答

- ・家の周辺で竹がどんどん広がっている。どうしたらいいか。
⇒竹は、根が30センチ以内と浅いので、それより深くブロックをしとけば生えてくる可能性が低い。竹は防災にいいと信じている人がいるが、傾斜地は根が浅いので地滑りになりやすい。傾斜地の竹をまず伐採していくことが重要。今ある竹を全部伐採するのは不可能。まず広がっていくのを処置することを最優先にして、周辺から伐採していくべき。

（4）座談会 「森林を守るために私たちができること」

- ・放置竹林を個人で伐採するにはなかなか根性があるので、地域単位で組織を作って、週末にボランティアで竹林を伐採する。週末なら働いている方も参加できるし、60歳以上の方も健康につながる。
- ・放置竹林の問題は、野生動物の繁殖につながり大きな被害になっているので、社会全体で取り組んでいかなければならない課題。義務としてではなく、自分たちの生活一部として楽しみながら活動していきたい。
- ・放置竹林が増え続けるのは竹を使わなくなったから。竹の商品を開発すべき。
- ・今日参加して初めて竹が燃料として利用されていたということを知った。若い世代にもっと竹の活用方法などの知識やノウハウをわかりやすく普及させていくことが大事。
- ・竹工芸品の普及で竹の需要拡大を図る。
- ・竹チップでボイラー等の燃料にする。
- ・土壌改良材として活用する。
- ・竹炭、竹細工として活用する。
- ・地域の人々に竹林を開放し、タケノコ狩りを実施する。
- ・竹林を自治体と相談のうえ整備していく。
- ・里山整備にやりがいを見つける。

(5) 行政の取組について紹介

(上野所長補佐)

県では、県民緑税を原資として災害に強い森づくりを目指している。

森林内で野生植物の住処になっていることから、管内では鹿やイノシシによる農業被害が深刻になっている。そこで、人間と野生動物の棲み分けを図るため、動物が近寄りにくくなるようバッファゾーンを設ける事業を実施している。

1年目は地元負担なく実施でき、その後は、地域住民で最低10年間の管理をしていただく協定が必要。地域住民の主体的な森林整備のきっかけづくりとして進めている。なかなか応募が少ない状況なので、是非地元の方に広めていただきたい。

(大橋班長)

淡路県民局では、企業と淡路景観園芸学校と協定を結び、土壌改良材の活用について研究をしている。雑草除去効果や、発育に良い影響があるかどうか現在検証を進めているところ。土壌改良材は、マルチング材として身近に使っていただければかと思うので、竹の活用方法として注目していただければ。

